

## 第 6 回円城寺記念賞受賞式での挨拶

11 月 29 日

仲田泰祐（東京大学）

この度は、栄誉ある賞を頂き大変光栄です。選出して下さった審査員の皆様、どうもありがとうございました。そして、私の研究活動を過去に支えてくださった、そして現在支えて下さる多くの方々に感謝しております。

特に、約 1 年前からスタートしたコロナ分析を支えて下さる皆様に感謝しております。同僚の藤井大輔さん、そして夏休みには約 20 人近くいたリサーチアシスタント達の活躍無しにはインパクトのある分析は出来ませんでした。そして、内閣官房をはじめとした資金提供をして下さっている方々、頻繁に情報提供をして下さっている国立感染症研究所の方々をはじめとした感染症専門家の皆様にも感謝しております。

アメリカにおける 2008 年からのゼロ金利下での金融政策・コロナ危機での「感染症対策と社会経済活動の両立」という二つのトピックには、これまでの経験だけでは今後どうすべきかがはっきりとしない、という共通点があると思います。理論の役割の一つは、そういった未知の状況に直面しているときに、議論のたたき台となる知見・指針のようなものを提示することだと考えています。

今回のコロナ分析では、そういった知見を幾つか分析から得ることが出来ました。そういった知見を生み出すことが出来たことは研究者として非常にありがたかったのですが、それ以上にありがたかったのは、そういった知見に一般の人々・政策現場の人々も価値を見出してくれたことです。今後も、研究活動の現場だけでなく、一般の人々・政策現場の方々にも価値を感じて頂くことを目指して研究に励みたいと考えております。今後とも、皆様のご理解、ご指導のほどよろしく申し上げます。